

平成 26 年度 財務計算書類の概要

平成 26 年度財務計算書類は、平成 25 年度の学校法人会計基準の一部改正をする省令の適用前であるため、従来どおりの書式で作成した。

概要の主なものは、次のとおりである。

平成 26 年度は新キャンパス・マスタープランの 2 年目であり、産業動物臨床教育センター及びテラスいちょう等が完成した。この施設費の支払は、当初予算に計上したとおり施設設備引当特定預金及び減価償却引当特定預金を取崩して充当した。

また、豚実習場の建築については、建築場所が産業動物臨床教育センターに隣接した場所としたことから、周辺施設の解体等の費用が新たに加わったことや、完成予定が平成 27 年 5 月中旬に延びたことなどから建物支出から建設仮勘定支出に科目変更した。

高校の入学増に伴う教室不足から、教科研究室などを教室 7 室に改修する工事を実施した。

収入については、信濃研修場の売却収入があったことと、高校の平成 27 年度入学者が 508 人になったことから、前受金収入が増収となったことが挙げられる。

資産運用としては、予算に基づき有価証券 2 億円を購入し、施設設備引当特定預金 4 億円、退職給与引当特定預金 5 億 59 百万円、減価償却引当特定預金 3 億円の繰入れを計画どおり行った。

1. 資金収支計算書について

平成 25 年度からの前年度繰越支払資金は 35 億円であり、平成 27 年度への次年度繰越支払資金は 35 億円 87 百万円になった。

(1) 収入の部について

- ① 学生生徒等納付金収入は、予算を上回る結果となった。その要因としては当初予算では、大学は入学定員の 120% で算出したが、生命・環境科学部の入学者が増えたこと等で増収となった。高校は入学定員の 258 人で算出したが、入学者が 349 人となり増収となった。
- ② 手数料収入は入学志願者数が予算計上した際の人数よりも、大学で約 400 人・高校で約 1200 人増加したことによるものである。
- ③ 補助金収入は国庫補助金収入が減少した。これは経常費補助金の一般補助の圧縮率が高かったため減少したことが主な要因である。加えて、利子助成が獣医学部棟の繰上げ返済を昨年度行ったため、生命・環境科学部のみとなったこと、特別補助は授業料免除事業補助金（東日本大震災分）の減額があったことなどによる。

- ④ 資産売却収入は、不動産売却収入として信濃研修場が 15 百万円で売却することができたこと、車輛売却収入として公用車を売却したことによるものである。
- ⑤ 事業収入は附属事業収入（動物病院診療収入）が当初予算を下回ったものの、昨年度決算額よりも 13 百万円増額となっている。
- ⑥ 雑収入については、私立大学退職金財団交付金収入が増加したことが主なものである。これは自己都合退職者が 3 人あったことによる。
- また、雑収入は（独）科学技術振興機構及び Nestec Ltd.等からの特許出願支援金、知財実施許諾契約一時金等によるもので増収となった。
- 保険金収入は当初予算では計上していなかったが、獣医学部棟の外調機冷温水コイル破損等に伴い保険金が支払われたことによるものである。
- ⑦ 前受金収入は、平成 27 年度入学者が高校で 508 人となり、当初予算で計上していた 258 人を上回ったことによるものである。

(2) 支出の部について

新キャンパス・マスタープランに基づく、麻布大学（仮称）新 5 号館・新食堂等建築工事の平成 26 年度支払額は計画どおり 10 億 56 百万円を支出し、産業動物臨床教育センター及びテラスいちょう等の建築工事が完了した。

- ① 人件費は、自己都合退職者が 3 人あり、退職金支出が多くなった。
- ② 施設関係支出については、建物支出は豚実習場の建築費として当初 54 百万円で予算計上したが、建築場所にあった羊舎と豚舎の一部解体等の工事費及び資材の高騰等と工期の関係で平成 26 年度の支出額は建設仮勘定に計上し、完成する平成 27 年度予算に残額 72 百万円を計上した。
- その他の建物支出としては動物病院の MRI 導入工事費として 21 百万円、生物科学総合研究所の中央監視装置 31 百万円などがある。
- 高校においては、平成 27 年度の入学者数が 508 人になったことから、急遽教室を 7 室増やすことになり、その改修工事費は 24 百万円となった。
- ③ 設備関係支出では、教育研究用機器備品の購入については、産業動物臨床教育センターに 1 億 40 百万円、全学共用機器のライブセル蛍光イメージングシステム 19 百 44 万円を購入した。動物病院の MRI についてはリース総額 1 億 73 百万円を計上し、平成 26 年度は 31 百 75 万円を支払った。
- ④ その他の機器備品は、テラスいちょうの厨房機器等を 63 百万円購入した。
- ⑤ 予備費については、教育研究用機器備品支出で 44 百 40 万円、その他の機器備品支出に 7 百 50 万円を使用した。これは高等学校の入学者増に伴い、改修工事を実施したことで、教室の備品購入に 13 百万円かかったことと、産業動物臨床教育センター及びテラスいちょうに係る備品購入費が増額したことによるものである。支出総額全体では変更はなく、当初予算では建物支出・構築物支出に計上してい

たが、執行に当たっては勘定科目が備品に変更となったことによるものである。

予備費の使用については、理事会では高校の入学増加に伴う改修工事費用として使用が了承されてきたが、改修工事費用は施設設備関係支出の予算内で賄えた形となり、設備関係支出に使用する結果となった。

2. 消費収支計算書について

(1) 消費収入の部について

帰属収入の合計は 67 億 74 百万円となり、消費収支計算書には資金収支計算書にはない勘定科目である現物寄付金 16 百万円が含まれている。

また、基本金組入額が 4 億 96 百万円となり、消費収入の部合計が 62 億 78 百万円となった。基本金組入額の内訳としては、産業動物臨床教育センター及びテラスいちょう等の取得に伴うものである。

(2) 消費支出の部について

消費支出の部合計額は合計 68 億 80 百万円となり、消費収支計算書には資金収支計算書にはない退職給与引当金繰入額 2 億 90 百万円、減価償却額 11 億 5 百万円、資産処分差額 1 億 97 百万円などが含まれている。資産処分差額としては、4 号館及び 5 号館の解体に伴う、除却による資産処分が主なものである。

消費収入の部の合計 62 億 78 百万円から消費支出の部の合計 68 億 80 百万円を差し引いた、当年度消費支出超過額は 6 億 2 百万円となった。

帰属収支差額（帰属収入合計から消費支出の部合計を差し引いた額）は、1 億 6 百万円の支出超過となった。

3. 貸借対照表について

- (1) 資産の部の固定資産のうち、有形固定資産では、建物、構築物及び教育研究用機器備品・その他の機器備品において産業動物臨床教育センター及びテラスいちょう等の取得により増加となり、一方建設仮勘定は産業動物臨床教育センターが完成したことにより建物に科目振替をしたことにより減少となっている。
- (2) その他の固定資産では、退職給与引当特定預金・施設設備引当特定預金を取崩し、支払に充てたので 3 億円の減少となっている。
- (3) 流動資産では、未収入金が大学で退職者が 15 人となったことに伴い、私立大学退職金財団からの交付金が増額したことによる増である。
- (4) 負債の部では、固定負債で長期借入金等が減少したが、流動負債で未払金が退職金の支払等で増額となったこと等により合計では増額となった。
- (5) 基本金の部では、第 1 号基本金が 318 億 36 百万円となり、第 4 号基本金の 4 億 52 百万円と合わせ、基本金の部合計が 322 億 88 百万円となった。

4. 財産目録では、平成 26 年度末の資産総額 282 億 59 百万円には、土地、建物、構築物及び備品等の基本財産 204 億 51 百万円と各種の特定預金及び特定資産等の運用財産 78 億 8 百万円が含まれている。この資産総額から、長期借入金及び退職給与引当金等の負債総額 52 億 20 百万円を差し引いた 230 億 39 百万円が正味財産である。

1. 資金収支計算書

[収入の部]

(単位:千円)

科目	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	差異
1 学生生徒等 納付金収入	4,880,496	4,994,002	△ 113,506
2 手数料収入	173,000	192,798	△ 19,798
3 寄付金収入	95,000	74,145	20,855
4 補助金収入	842,100	740,605	101,495
5 資産運用収入	32,340	31,117	1,223
6 資産売却収入	209,000	224,171	△ 15,171
7 事業収入	456,200	435,783	20,417
8 雑収入	240,000	287,244	△ 47,244
9 前受金収入	803,718	963,636	△ 159,918
10 その他の収入	1,696,900	1,769,090	△ 72,190
11 資金収 入 調 整 勘 定	△ 1,040,000	△ 1,207,870	167,870
12 当年度収入合計	8,388,754	8,504,721	△ 115,967
13 前 年 度 繰 越 支 払 資 金	3,500,702	3,500,702	0
収入の部合計	11,889,456	12,005,423	△ 115,967

【1. 学生生徒等納付金収入】

予算積算時の人数と比較して、高校の入学者数が91人、併願による一時金納入者数が642人上回り、114百万円増となった。

【2. 手数料収入】

予算積算時の人数と比較して、大学と高校の志願者数が上回り、入学検定料が19百万円増となった。

【3. 寄付金収入】

特別寄付金として、125周年記念募金39百万円、奨学寄付金25百万円、父母会8百万円、同窓会3百万円の収入があった。

【4. 補助金収入】

予算額と比較して、国庫補助金の経常費補助金が1億32百万円減少し、地方公共団体補助金が36百万円増となった。

【6. 資産売却収入】

不動産売却として、長野県佐久市信濃研修場売却15百万円、有価証券売却として、平成21年度に購入した地方債1件・社債1件の満期償還209百万円の収入があった。

【7. 事業収入】

予算額と比較して、附属事業収入の動物病院収入が、診療件数の伸び悩みなどにより27百万円減となった。なお、受託事業収入には、大学間連携共同教育推進事業の委託費10百万円が含まれている。

【8. 雑収入】

自己都合退職者が3人生じたことによる私立大学退職金財団交付金収入32百万円増及び獣医学部棟機器破損による保険金収入があった。

【9. 前受金収入】

予算積算時の人数と比較して、高校の平成27年度入学者数が250人、併願による一時金納入者数が919人上回るなど、全体で1億60百万円増となった。

【10. その他の収入】

予算積算時の人数と比較して、奨学金貸与者数が上回り、基金特定預金からの繰入収入が13百万円増となった。

(注) 金額は千円未満を四捨五入したものである。

〔支出の部〕

(単位:千円)

科 目	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	差 異
1 人件費支出	3,454,611	3,263,859	190,752
2 教育研究 経費支出	1,874,215	1,759,970	114,245
3 管理経費支出	628,440	583,623	44,817
4 借入金等 利息支出	33,000	32,913	87
5 借入金等 返済支出	111,110	111,110	0
6 施設関係支出	913,278	875,645	37,633
7 設備関係支出	611,315	611,315	0
8 資産運用支出	1,472,900	1,482,406	△ 9,506
9 その他の支出	491,458	484,493	6,965
10 予備費	98,125	0	98,125
11 資金支 調 整 出 勘 定	△ 743,304	△ 786,760	43,456
12 当年度支出合計	8,945,148	8,418,574	526,574
13 次年度 繰越支払資金	2,944,308	3,586,849	△ 642,541
支出の部合計	11,889,456	12,005,423	△ 115,967

【1. 人件費支出】

理事会で承認された人員要望に基づき人件費の予算計上を行い、生命・環境科学部において教員組織の再編に伴う計画補充が進行中ということもあり、決算としては1億91百万円の予算残となった。

【2. 教育研究経費支出】

消耗品費、奨学費、業務委託費などにおいて、予算残となった。なお、修繕費の主なものは、5号館解体42百万円、9号館塗装24百万円、8号館教室改修4百万円である。

【4. 借入金等利息支出】

生命・環境科学部棟建設資金の借入に対する借入金利息である。なお、国庫補助金として、借入利息に対する利子助成24百万円があった。

【5. 借入金等返済支出】

生命・環境科学部棟建設資金の借入に対する第2回目の元金返済である。

【6. 施設関係支出】

主なものは、テラスいちょう5億38百万円、産業動物臨床教育センター30百万円、生物科学総合研究所中央監視装置31百万円、高等学校改修工事24百万円、動物病院MRI付帯工事21百万円と(仮称)新5号館・新食堂及び豚実習場の建設仮勘定1億90百万円である。

【7. 設備関係支出】

教育研究用機器備品支出の主なものは、産業動物臨床教育センター1億40百万円、動物病院MRI装置1億73百万円、ライフセル蛍光イメージングシステム19百万円、オートウエルカウンター11百万円である。また、その他の機器備品支出の主なものは、テラスいちょうの厨房機器等63百万円である。

【8. 資産運用支出】

主なものは、有価証券購入支出2億円、繰入支出として、施設設備引当特定預金4億円、退職給与引当特定預金5億59百万円、減価償却引当特定預金3億円である。

【10. 予備費】

設備関係支出の教育研究用機器備品支出及びその他の機器備品支出が予算超過となったため、52百万円を使用した。

【13. 次年度繰越支払資金】

平成27年度への繰越支払資金は35億87百万円である。予算額と比較して、6億43百万円増加したのは、前受金収入が1億60百万円多かったこと、人件費支出等が予算より減少したこと等が挙げられる。

(注) 金額は千円未満を四捨五入したものである。

2. 消費収支計算書

[消費収入の部]

(単位:千円)

科 目	平成26年度 予 算 額	平成26年度 決 算 額	差 異
1 学 生 生 徒 等 納 付 金	4,880,496	4,994,002	△ 113,506
2 手 数 料	173,000	192,798	△ 19,798
3 寄 付 金	117,000	90,241	26,759
4 補 助 金	842,100	740,605	101,495
5 資 産 運 用 収 入	32,340	31,117	1,223
6 資 産 売 却 差 額	0	2,654	△ 2,654
7 事 業 収 入	456,200	435,783	20,417
8 雑 収 入	240,000	287,244	△ 47,244
[A] 帰 属 収 入 合 計	6,741,136	6,774,444	△ 33,308
[B] 基 本 金 組 入 額	△ 905,488	△ 495,855	△ 409,633
[C] 消 費 収 入 の 部 合 計 ([A] + [B])	5,835,648	6,278,589	△ 442,941

(注) 金額は千円未満を四捨五入したものである。

【3. 寄付金】

現物寄付金16百万円は、物品を金額に換算して計上したものであり、主なものは、教員からの科研費等で購入した備品、父母会からのトレーニングマシン、高校卒業生からの記念樹モニュメント、図書の寄贈である。

【6. 資産売却差額】

資産売却差額は、信濃研修場売却による不動産売却差額と公用車売却による車輛売却差額である。

【[B]. 基本金組入額】

学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして、帰属収入のうちから組入れた金額である。基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで、4種類の基本金があるが、本学では第1号基本金及び第4号基本金を組み入れている。
①第1号基本金:施設設備の整備拡充のために要した金額であり、平成26年度は4億96百万円を組み入れた。
②第4号基本金:恒常的な資金の維持のための基本金であり、平成25年度における消費支出の部の合計金額から退職給与引当金繰入額及び減価償却額を除く金額を12で割った1月分の相当額を設定することとなっている。なお、本年度は組入れを行わない。

〔消費支出の部〕

(単位:千円)

科 目	平成26年度 予算額	平成26年度 決算額	差 異
1 人 件 費	3,423,475	3,198,511	224,964
2 教育研究経費	2,802,215	2,757,594	44,621
3 管 理 経 費	737,340	692,816	44,524
4 借入金等利息	33,000	32,913	87
5 資産処分差額	0	197,137	△ 197,137
6 徴収不能引当金 繰 入 額	0	1,656	△ 1,656
7 予 備 費	100,000	0	100,000
[D] 消費支出の部合計	7,096,030	6,880,627	215,403
当 年 度 消費支出超過額	1,260,382	602,038	658,344
前 年 度 繰 越 消費支出超過額	8,647,232	8,647,232	0
翌 年 度 繰 越 消費支出超過額	9,907,614	9,249,270	658,344

〔収支差額〕

[E] 帰属収支差額 ([A] - [D])	△ 354,894	△ 106,183	△ 248,711
[F] 帰属収支差額比率 ([E] / [A])	△ 5.3%	△ 1.6%	△ 3.7%
[G] 消費収支差額 ([C] - [D])	△ 1,260,382	△ 602,038	△ 658,344

【1. 人件費】

人件費のうちの退職給与引当金繰入額は、教職員の退職の際に支払われるであろう負担額を計上している。
消費収支計算書の退職金は、退職者に支給される退職金(資金収支計算書退職金支出)から、退職者の退職給与引当金を差引いた額である。

【2. 教育研究経費】

減価償却額9億96百万円が含まれている。

【3. 管理経費】

減価償却額1億9百万円が含まれている。

【5. 資産処分差額】

教育研究用機器備品などの除却による処分差額である。

【6. 徴収不能引当金繰入額】

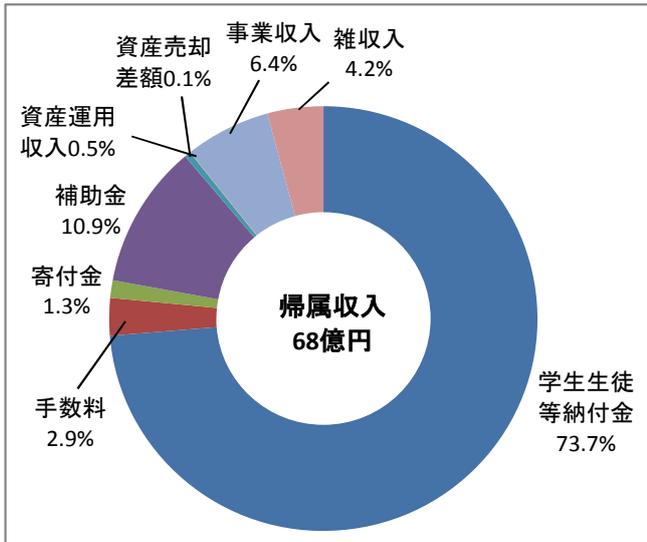
麻布大学奨学金及び麻布大学父母会奨学金の過年度未収入金額及び動物病院の診療収入における過年度未収入金額のうち、徴収不能になりうる金額を引当金として繰り入れている。

【消費収支差額】

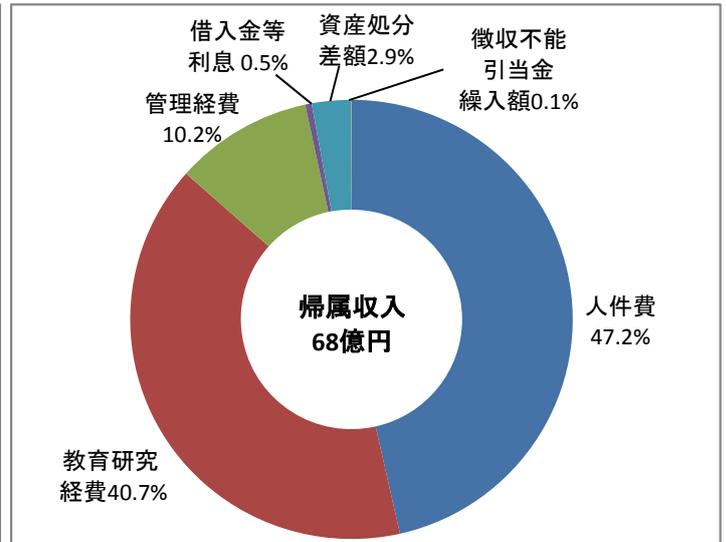
消費収支計算書における収支の均衡状態は、6億2百万円の支出超過になった。

(注) 金額は千円未満を四捨五入したものである。

帰属収入の構成比率



帰属収入に対する消費支出の構成比率



《H26年度帰属収入決算額及び構成比率》

(単位:千円)

科目	決算額	構成比率
学生生徒等納付金	4,994,002	73.7%
手数料	192,798	2.9%
寄付金	90,241	1.3%
補助金	740,605	10.9%
資産運用収入	31,117	0.5%
資産売却差額	2,654	0.1%
事業収入	435,783	6.4%
雑収入	287,244	4.2%
帰属収入合計	6,774,444	100%

《H26年度帰属収入に対する消費支出の構成比率》

(単位:千円)

科目	決算額	構成比率
人件費	3,198,511	47.2%
教育研究経費	2,757,594	40.7%
管理経費	692,816	10.2%
借入金等利息	32,913	0.5%
資産処分差額	197,137	2.9%
徴収不能引当金繰入額	1,656	0.1%
消費支出合計	6,880,627	101.6%

(注) 金額は千円未満を四捨五入したものである。

3. 貸借対照表

貸借対照表は、年度末(平成27年3月31日現在)における学校法人の財政状態を示す計算書類である。資産とは、教育研究活動に使用される学校法人の財産であり、負債とは、その財産の調達先のうち、将来返済しなければならない債務である。基本金と消費収支差額は、調達資金のうち法人外部へ返済の必要のない、学校法人に完全に帰属する資金総額であり正味財産(自己資本)と称されている。

[資産の部]

(単位:千円)

科目	平成26年度 決算額	平成25年度 決算額	増減
1 固定資産	24,358,715	24,478,572	△ 119,857
有形固定資産	20,451,003	20,243,354	207,649
その他の固定資産	3,907,712	4,235,218	△ 327,506
2 流動資産	3,900,238	3,690,520	209,718
3 資産の部合計	28,258,953	28,169,092	89,861

[負債の部]

科目	平成26年度 決算額	平成25年度 決算額	増減
4 固定負債	3,290,939	3,418,429	△ 127,490
5 流動負債	1,929,089	1,605,556	323,533
6 負債の部合計	5,220,028	5,023,985	196,043

[基本金の部]

科目	平成26年度 決算額	平成25年度 決算額	増減
7 第1号基本金	31,836,194	31,340,339	495,855
8 第4号基本金	452,000	452,000	0
9 基本金の部合計	32,288,194	31,792,339	495,855

[消費収支差額の部]

科目	平成26年度 決算額	平成25年度 決算額	増減
10 翌年度繰越消費支出超過額	9,249,270	8,647,232	602,038
11 消費収支差額の部合計	△ 9,249,270	△ 8,647,232	△ 602,038

科目	平成26年度 決算額	平成25年度 決算額	増減
12 負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	28,258,952	28,169,092	89,860

(注) 金額は千円未満を四捨五入したものである。